



令和2年度 地域共生社会の 実現に向けた 包括的支援体制構築事業

— 経過報告と気づきの提案 —



久留米市
(地域福祉課・協働推進課)



久留米市社会福祉協議会



Chietsuku, Pjt

知恵つくプロジェクト

わたし達の**ミッション**は
地域共生社会づくりに**必要な**
プラットフォームを
つくること。



Chietsuku, Pjt

久留米市 ✕ 久留米市社会福祉協議会 ✕ 知恵つくプロジェクト
(地域福祉課・協働推進課)

プラットフォームって？

場所のこと？プロジェクトのこと？

人が集まること？

出入り自由な感じ？

地域共生社会って？

問いから
始まった

共に生きる社会ってこと？
多様性？多世代？異文化？
人と人が関わること？



災害
多発



テクノロジーの
発展



超少子
高齢化

多様な人との
つながり

日常からの
関係性づくり

賑わいづくりからの
きっかけ

助け合い・支え合い

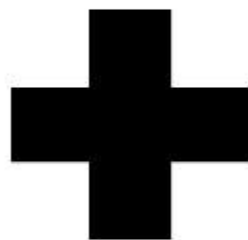


災害
多発

新型コロナ
流行拡大



テクノロジーの
発展



超少子
高齢化

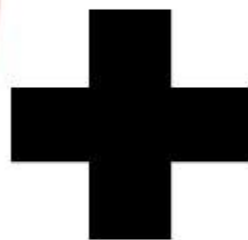
緊急事態宣言
ステイホーム
三密
ソーシャルディスタンス

会えない

賑わえない

助け合えない

新型コロナ 流行拡大



過少子
高齢化

緊急事態宣言
ステイホーム
三密
ソーシャルディスタンス



共生社会におけるプラットフォームって？

毎月変わっていく企画

自分達の日常で感じたものを持ち合わせるー

Local Login Project =

start

個人時代から繋がる「暮らしそのもの」が「ローカルログイン」

Local Login Project

地域福祉を一般化するプラットフォーム

住民力

緊急事態宣言を真実に変える

距離をもって、つくる
ソーシャル・ディスタンス・アクションで
住民力を高める・つなげる・広げる
→プラットフォーム・プラットフォーム
生まれる地域福祉、多岐のプラットフォーム

4月

距離を保ちながらも出来る事
ソーシャルディスタンス
アクション Project

機能不全に対しても
高め合える住民力

機能不全によって
変化する地域

4月

距離を保ちながらも出来る事
ソーシャルディスタンス
アクション Project

機能不全に対しても
高め合える住民力

IKIGAIプラットフォーム(仮)
ーネットワークファンタジウムー

5月29日(金)
19:00-21:00

ICUスタート

5月

何があっても対応できる
コーディネート組織の連携
IKIGAI
プラットフォーム

中間支援組織が協働し
住民の生きがいをつくる

地域福祉ロマン

6月

地域福祉という
人々の幸福は
ロマンを語り合う事で
新しく変化する

地域福祉
ロマン
project

誰もが持つ福祉
身近にある福祉

福祉や共生を
ロマンという
言葉で表す

はじロマproject

感じる・共感が生まれる
ロマンの共有プラットフォーム

7月

はじける文化と
地域ロマン
はじロマ
project

知恵とひとしな
持ちより会

8月

はじける文化と
地域ロマン
はじロマ
project

目的のない会の開催に
可能性を作り出す

人を好きになる
入り口

8月

はじける文化と
地域ロマン
はじロマ
project

目的のない会の開催に
可能性を作り出す

知恵と一品持ち寄り
はじロマ会

開かれすぎた
プラットフォーム
はじロマ
project

9月

開かれすぎた
プラットフォーム
はじロマ
project

生まれた3つのプラットフォーム

2020年

4月～

これからの
地域福祉を考える
プラットフォーム

地域福祉
一般化会

2020年

5月～

中間支援組織が
つながる
プラットフォーム

IC UNIT

2020年

9月～

はじける文化と
地域ロマン
プラットフォーム

はじロマ会

この1年だからこそ
手探りでも実践していくことで
これから必要なプラットフォームが見つかるはず。

いきがいコーディネーション ユニット

IC UNIT

中間支援組織の連携と協働
—今、共にできること—

まちの機能不全をなんとかしたい

新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言。ステイホームとなり、あらゆる組織やお店がストップした。動きたくても動けない状況にどう対応するのか。住民の希望や安心をコーディネートする中間支援組織の動きを出し合い、まちの機能不全を打破することが必要だと感じた。

5月:IKIGAIプラットフォーム キックオフシンポジウム(オンラインで開催)

……コロナ禍で、校区や市民活動団体がストップ。その背景には公共施設の使用中止や行政からの要請も。こういう危機に中間支援組織がいかに存在感を発揮できるかで、社会の動きも変わる。一方で、ジャンルごとに作られた中間支援組織同士の連携は十分か。同じようなことをして無駄は無いのか。共有できる知識や経験はないのか。

中間支援組織の
連携と協働
—今、共にできること—



久留米市社会福祉協議会



IC
UNIT



筑後川防災施設くるめウス



市民活動サポートセンターみんくる



今、共にできること

社協 ✕ みんなくる ✕ くるめウス



その他、
「まちなかくるめウス」
「グラレコ講座」なども

江上オンライン計画

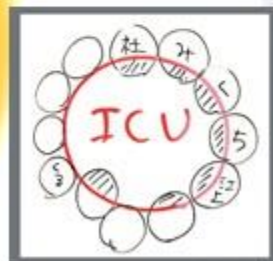


手探りしてきたこと

- 最初は、関わるスタンスが難しかった
- 組織として困っていることを協働できるか、事業にできるか
- 報告書になんて書こう・・・同職場の人たちに説明しづらい
- 仕事として関わっていくためにはどんな形にすればいいのか？
- 「事業を進めるだけではなく、どんな想いで仕事をしているか」を共有することも必要なのでは？
- 中間支援という役割とは
- 個人として関わるのか、組織人として関わるのか

気づいたこと

- 各組織が築いてきた信頼で実施できた事例
- 各組織の全てを重ねて関わるのではなく、
重なり合う部分をつなぎ合わせる
- 思いを共有できれば自然と協働したくなる



「IC UNITに感じる可能性」



市民活動サポート
センターみんくる

コロナで事業や活動が止まっていた中、IC UNITでお互いの得意を持ち寄り、掛け合わせることで、活動を進めるだけでなく、できなかったことを実現することができました。今後は、施設間連携のハブの役割も意識していきたいと思っています。

オンラインによる事業継続や中間支援組織としての在り方見直し、他分野の関係者獲得ができました。これは「自分の未来」であり「社会の未来」。各機関が得意を生かし合い、世の中の困り事の芽を摘む。IC UNITが社会全体の幸福につながるかもしれません。

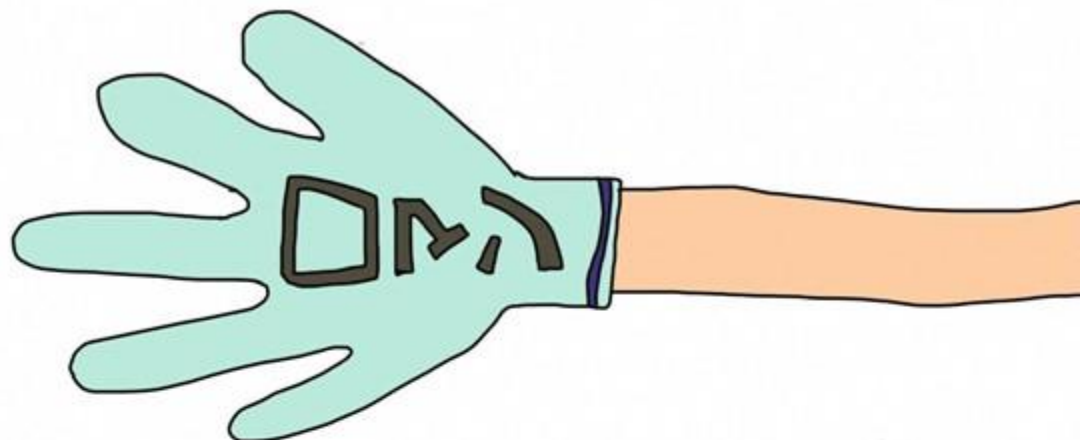


筑後川防災施設ぐるめウス



久留米市社会福祉協議会

コロナ禍で動きが取れなかったから、大きな焦りと不安を感じていました。そんな時にIC UNITが生まれ、思いを話すことで仲間が増え、「まさかこんな夢物語...」と思っていた妄想を、実現することができました。IC UNITは一緒に夢を語れる場所だと思います。



はじける文化と地域ロマン



はじロマ会

ロマンを語る。オープンマインドの会
—15000分の1の共生社会—

はじける文化で久留米に「革命」を

近年漂う閉塞感。行政・議会・市民。社会不安と行政サービスの先細り。そこに加えて新型コロナの流行。誰もが自分らしく安心して暮らすためには、現状を打破する必要性を感じた。地域福祉とは、ロマンの集合体ではないのか？特有の「はじける」精神性を持つ久留米ならではの手法とは。

8月～:「知恵と一品」 持ち寄り会 (後の「はじロマ会」)

……それぞれが持っている、もしくは地域生活の中で感じたことのある“ロマン”を披露。ロマンを出しやすいよう、サイコロを使ったり、ロング自己紹介を取り入れたり。オープンマインドになることの大切さを実感してもらう。



実践

15000分の1の共生社会

第2木曜ははじロマ会



実践

15000分の1の共生社会

江上校区でロマン自慢大会



手探りしてきたこと

- その人のメリットや立ち位置などが明確じゃない状況で誘うこと
- 目的が明確じゃないことが、地域共生社会につながるのではないか
- 本当の意味で「開かれたプラットフォーム」とは何か
- この感覚はここだけになっていないか
- ロマンが消費されないか。心に残っているか
- 閉鎖的になっていないか

気づいたこと

- ロマンを通すと人と人が一気に近づく
- “オープンマインド”がロマンの背中を押す
- ロマンはあらゆる力を持っている
- 誰もが“ロマン”を持っている
- ロマンはプラスの感情だけでない

開か
れ
す
ぎ
た
い





私のロマンは、篠山城（久留米城）に天守閣を建てる事。3億円かかると思い、約50年前から貯金を始めましたが、なかなか……。あと一つは、仲間と共に、市内で認知症サポーターを8万人養成すること。認知症になっても、安心・安全な街づくりです。

「あなたができることをやればいいの」。視力に障害のある私が、初めて働いた障害者施設の園長の言葉です。苦手を押し付け合うと苦しいけど、“得意”な部分で補い合い、できないことは頼る。障害の有無は関係なく、みんながうまくいくと思っています。



私にとって仕事は生きる道標。料理人を志してまだ38年、毎日食材と出会う度にわくわくします。それと同じように、人との触れ合いから何か素敵なことが始まればと期待します。仕事を通じて地元久留米に何か貢献でき、それを全国に発信したいです。





地域福祉 一般化会

これから必要な地域福祉の視点を考える
地域共生社会のプラットフォームづくり

誰に何を伝えればまちは変わるのか

「地域福祉」「地域共生社会」などという言葉は一部の人間のものです、この動き自体が理解できないのではないかという疑問。誰もが関わるはずのこの事業に関連する概念を一般化するには、何が必要なのかを考える必要があった。

随時：毎月2～3回程度、IC UNITやほじロマ会の企画など、コアメンバー（市・社協・チエツクpjtなど）で会議。対話を通して一般化の必要性や定義、何を実現すべきなのかを考えた。

……行政サービスの現状と今後、組織の意味、機能不全に陥る理由は。地域福祉を一般化するのはなぜか。一般化とは何を指すのか。真に地域共生社会を実現するために起こすべき「パラダイムシフト」は。今後に向けてどのような足跡を残していくべきか。

プラットフォームづくり

▶ 実践と対話の繰り返し

企画は二転三転。目的は何か、何を達成したいのか。実践しながらも形を変え、少しずつ大切なものを紡ぐ。

▶ 個人的に自由に発言

所属組織の立場での意識をわきに置き、自分が率直に感じることを場に出していく価値。

▶ 生み出した二つの場

“IC UNIT”と“はじロマ会”を生み出す。徐々にアップデート。

地域共生社会の概念を浸透

▶自然発生的プラットフォーム

当初は事業運営のコア会議。その中で地域福祉を真剣に考え始めた結果、プラットフォームであると自認。

▶経過と気づきを資料に落とし込む

事業の中で出会った本質や気づいたことを一般化するのに、あらゆる立場の人が、地域福祉を説明できる資料をまとめようという流れに。

手探りしてきたこと

- あくまでも委託事業。成果を見せないといけない
- 手探りでは報告書は書けない
- しかし、暮らしている住民にとっての成果は数値で表せない
- プラットフォームはすでにたくさん存在しているのでは
- この事業、私たちだからこそつくれるものは何か

気づいたこと

- 地域福祉の一般化とは、既存の概念を伝えることじゃない
- すでに存在しているプラットフォームや団体、地域住民をつなぐものがある。そこがつながる作用が一般化ではないか。
- 今年度の動きを説明できる資料を作成し、得た視点で見える化することで、得た知識を未来につなげるのではないか。
- 目に見えない価値観があることを確信。
- 行政・中間支援組織・フリーランス、それぞれが壁（立場）を超えたことで得られたものが大きい。
- 委託事業という枠組みの新たな可能性

市職員



「委託事業は仕様書通りに実施」。それが当たり前と団体に寄り添わない姿を見てきました。この事業は関わる人が対等で主体的。みんなで何転もしながら本質を探りました。本当の協働を見た気がします。そして、一步踏み込み一人として本音で話すことが、そこに繋がるのかも感じました。何事にも主体的にオープンマインドでいきます！

自分の視点の偏りに気づいて、会議などでも一步引いて全体を見渡せるようになったかな。思いっきり課題寄りの話の中にも、“楽しい”“嬉しい”要素を取り入れ始めました。組織に対する視点も変わりました。社協職員はもっといろんな人たちと関わるべきと思ったし、フラットな関係や一人ひとりの意識が変わることの大切さを認識しました。

社協職員



フリーランス



認知症の祖父、近所の独居老人や生活保護の人。気になりながらも、専門職頼みだった。課題に向き合う福祉分野の人たちと出会い、自分の無力さを感じつつ、地域と福祉が混ざり合うために必要な要素は何かと問う一年。お互いが理解と共感を強めていくためには、ポジティブな原動力が必要だと感じました。

2020- 3つのプラットフォーム

ただただ
ロマンを語り合う
プラットフォーム

はじロマ会

実験

- ✓ 目的を持たない会
- ✓ ロマンの効果
- ✓ フラットな立場
- ✓ オープンマインド

中間支援組織が
つながる
プラットフォーム

IC UNIT

実践

- ✓ 校区への関わり
- ✓ 組織の協働事業
- ✓ 校区でロマン自慢大会を実現
- ✓ 組織としてのプロセスづくり

地域福祉を
一般化する
プラットフォーム

地域福祉
一般化会

実態

- ✓ 3者での価値観の融合
- ✓ 成果をプロセスに
- ✓ お互いの役割の把握
- ✓ 関わった人の意識変化

ただただ
ロマンを語り合う
プラットフォーム

はじロマ会

中間支援組織が
つながる
プラットフォーム

IC UNIT

地域福祉を
一般化する
プラットフォーム

地域福祉
一般化会

地域共生社会における プラットフォームを手探りしながら 大切にしたこと。

-
- ・多様な人達の関わり
 - ・強制的でなく主体性
 - ・真面目に行う中で楽しめること
 - ・担い手となる人材創出
 - ・ひとりひとりの活躍
 - ・否定しないディスカッション
 - ・支えるのではなく支え合う
 - ・イベントではなく日常づくり
 - ・人の幸せのものさしはそれぞれ
 - ・全ての物事に正解はない
-

事業を通して気づいたこと

これらは全て、
地域共生社会に向けた
プラットフォームづくりの

プロセスに存在

手探りの
価値を
認める

数値化
できない
成果もアリ

笑いや
遊び心を
加える

「偶然」を
可能性に
変える

立場じゃなく
住民として
関わる

これらを
プロセスに
入れる
大切さ。

手探りに
価値がある

笑いや
遊び心を

「偶然」を
可能性に

立場じゃなく
住民として
関われる

数値化
できない
成果もアリ

言い換えると、さまざまなプロセスに

ロマンをプラス
するということ

わたし達は考える。これからの地域に必要なのは



です。

ちいきふくし-ろまん

ところで

「**地域福祉**」ってなに？

地域福祉

地域福祉

私たちは地域福祉をこう捉えてみた

- 校区コミュニティや市民活動
- まちづくり
- 暮らし・教育・企業・医療
- 環境・伝統
- 再生・安全・協働

「地域」

+

「福祉」

- 幸せ・暮らしの安心
- 障がい者・高齢者・子ども
- 支援する・支援される
- 課題・解決
- 制度・サービス



||

地域福祉

「地域福祉」を私たちの言い換えれば

“誰もが住民として
「 」し合える暮らし”



“地域共生社会”は、
『地域福祉』を推進した先にある。

では、

地域福祉の**推進**とは？

では、「地域福祉の推進」を私たちの言い換え。

“「
」し合える”を
めちやくちや増やすこと

だと考えます。

気づいたことを振り返ると。。。。

これだった

手探りに
価値がある

笑いや
遊び心を

「偶然」を
可能性に

立場じゃなく
住民として
関われる

数値化
できない
成果もアリ

言い換えると、さまざまなプロセスに

ロマン をプラス
するということ

■「地域福祉」をめっちゃ進めるには——



誰もが住民として「 」し合える暮らし

ここ(=プロセス)に



ロマン

を注いでみる

ロマンはこんな力を持つてる!!

- ロマンは誰でも持っている
- ロマンを聴くと、その人を好きになる
- ロマンは世代も性別も文化も超える
- ロマンを語る人の顔はステキ
- ロマンは人と人との距離が近づく
- ロマンをあまり語らなくなっている
- ロマンは一生続くもの
- ロマンは人を素直にさせる
- ロマンを語る場に比較も否定もない
- ロマンは人の心をほっこりさせてくれる



誰もが住民として「 」し合える暮らし

ここに

ロ

マン



が入った事例
を紹介



人に嫌われたくない

市民活動の資金集めの話し合い。「メリットを伝えるのがとても苦手」と1人が言った。「多分、嫌われたくないんだ。今まで人に気に入られるように生きてきたと思う」。

「なんでそうなったの」と問う仲間。「いじめられた経験かな。否定されたくない。自分を抑えてでも、全力で気に入られようとするところがある」。聴いた仲間は「その話を言えたことがすごいよ」。涙を流し、背中をさすり、手を握りしめた。苦手を共有し、「ここで成功体験を積もう」と誓う。私たちの絆は深まった。

▶ 誰もが住民として

「弱さを見せ」合える暮らし

見せたくない部分
も見せ合えた
関係性に



老いた母との間合い

週末、すっかり痩せた母の体を洗う。最初は迷惑をかけられっぱなしだと、イライラもした。

1年が経ち、間合いが合ってきた。母ができること、できないことの間合い。求めているのは小さな安心だった。

「ごめんね、ありがとう」と、さっぱりした顔を見ていくうちにふと気づいた。

人は誰でも老いる。私もいつかこうなる。

小さくていい。安心に囲まれて老いていきたい。

親子だからこそ
難しい部分が
通じ合えた
瞬間に



▶ 誰もが住民として

「小さくても**安心**」し合える暮らし

ロマン手袋が生まれた瞬間

第1回のはじロマ会。新型コロナウイルスの感染対策として、参加者用に軍手を用意した。

会場準備をする最中、スタッフ同士の他愛もない絡み合いから「ただ手袋するだけじゃ面白くない？」「んじゃ、何か書く？」「みんなロマンを話すんだろ。んじゃ『ロマン』って書いたら面白くない？」「話し終わってロマンを感じたら『ロマン!!』って軍手をかざしたら、話した人もうれしいよね」。行政が実施主体。地域福祉を推進する事業。どんな場でも楽しいほうがいいに決まってる。

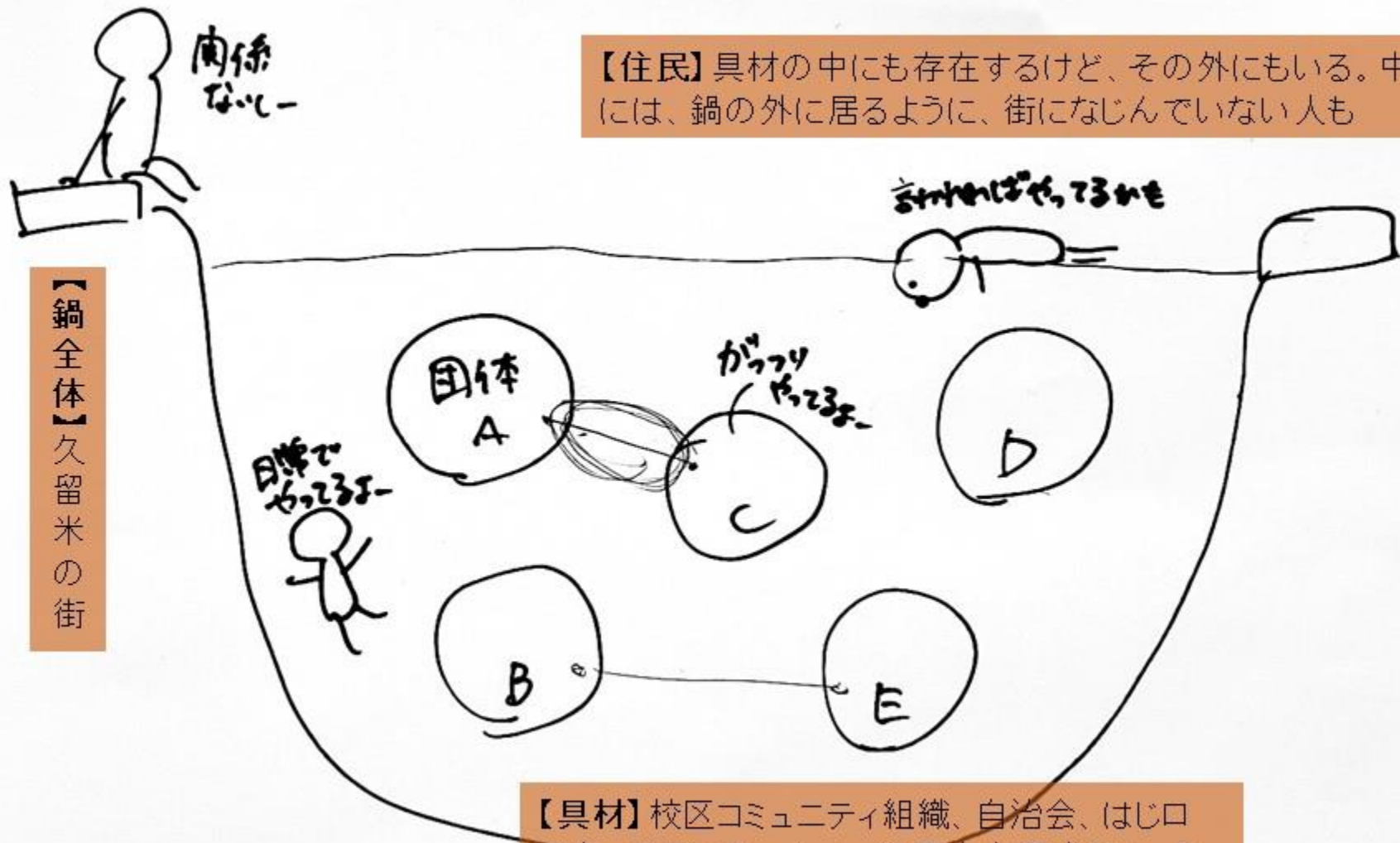
▶ **誰もが住民として**

「面白がり」合える暮らし

行政施策も
感染症対策も
楽しんじゃう
ところが



久留米を鍋に見立ててみる



【鍋全体】久留米の街

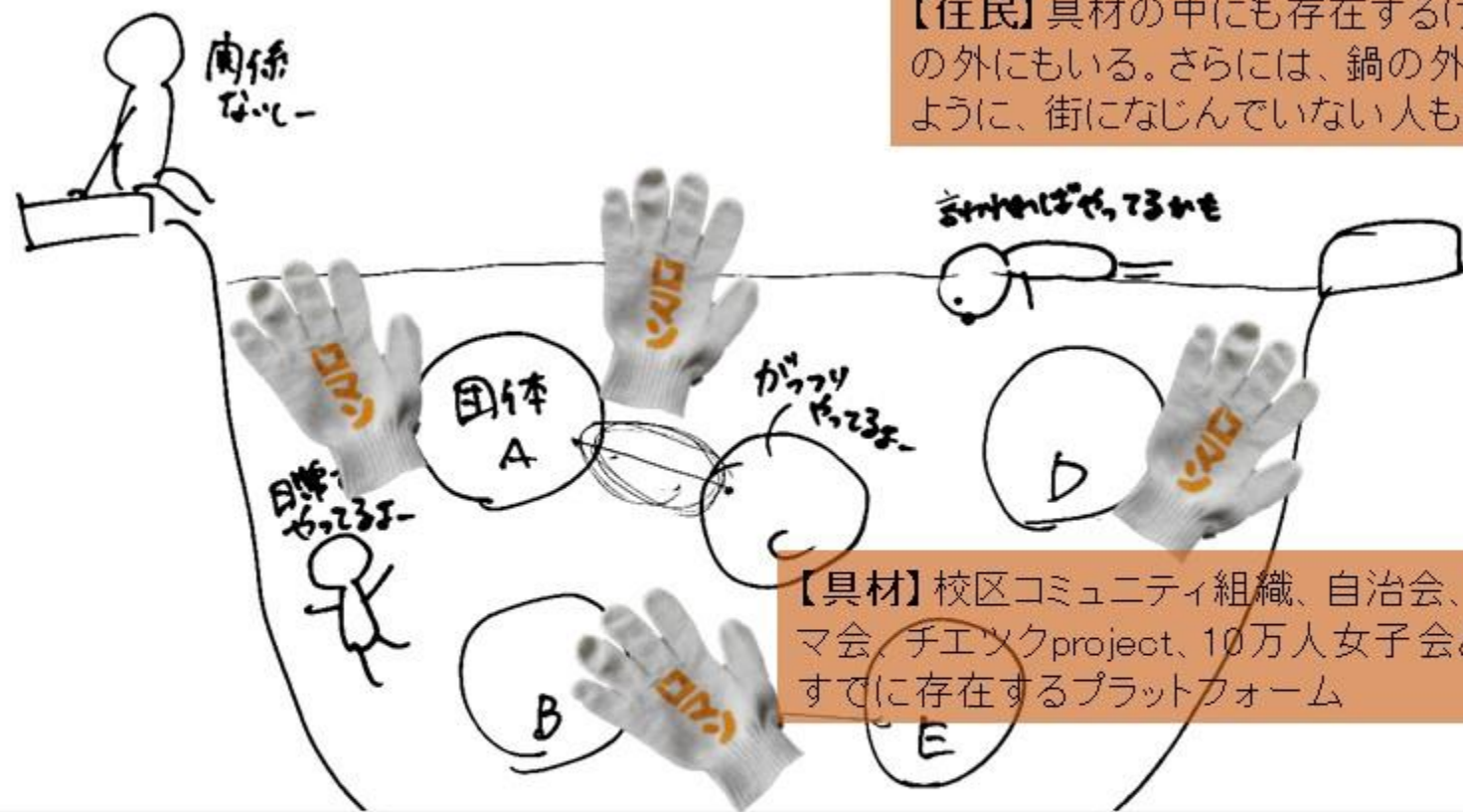
【住民】 具材の中にも存在するけど、その外にもいる。中には、鍋の外に居るように、街になじんでいない人も

【具材】 校区コミュニティ組織、自治会、はじロマ会、チエツクproject、10万人女子会といった、すでに存在するプラットフォーム

地域福祉ロマンがまちにあふれると！

【住民】具材の中にも存在するけど、その外にもいる。さらには、鍋の外に居るように、街になじんでいない人も居る

【鍋全体】久留米の街



【具材】校区コミュニティ組織、自治会、はじロマ会、チエツクproject、10万人女子会といった、すでに存在するプラットフォーム

ロマン＝「スープの出汁」

【現状】社会環境の変化や福祉サービスの歴史などで、徐々に薄まってきたスープ。“つながりの希薄化”“無関心層の増加”“担い手不足”などを引き起こしている。

【ロマン出汁が入ると】すでにあるプラットフォームや団体と住民が緩やかにリンク。これまでにない動きや不可能だったことに挑戦・実現できる可能性が生まれる

地域福祉ロマンが染み渡ると
発想や視点に変化が
起こり始める予感。



思考・発想の転換で

関わりの別の入口に気づく

二元論

持っているか
持っていないか

解決しなければならない

解決「する」「される」
という関係性の固定

「課題」が前提の関係

正しいか
誤っているか

知識

より

意識

課題

より

可能性

解決

より

関係性

自分次第

誰もができる

人が本来備える自力

他力の重要性

十人十色→一人十色

流動的な役割

選べる幸せ

答えは一つじゃない

知識
より
意識

思考の転換

知識より意識

のどが渴いている人がいました。

「脱水症状を防ぐには、浸透率0%の水が最適なんだよ」

「どこかにコップは無いかな。僕が水をくんでくるよ」

どちらも助かる。けど、だれでもできる関わり方はどっちなんだろう。



課題
より
可能性



課題より可能性

目の前にコップがある。
そこには水が入っていない。

「水が入っていないじゃないか」
「何を入れよう。いや、何に使おう」

課題よりも可能性に目を向ける。
そっちを見て話せる社会でありたい。

課題の先

思考の

転換

解決
より
関係性



解決より関係性

思考の

「コップを取られた。コップをくれ」

この人“コップ”を渡すのは簡単。

「なぜコップが必要なの？」

と一言問いかける。

「のどが渴いて倒れそうだ」

この一言を聞き出す。

転換

関係性を築いた先にある本質。

福祉制度



知識

知識を持った人が、
目の前に迫った課題を
解決する手法を考える。

課題

今後も必要なこと
でも、全員が
この手法はとれない

解決

住民として



意識

人に意識を向け、
可能性(強み)を考え
関係性から始める。

可能性

すぐに変わらない
でも、持続可能で
誰もができる関わり

関係性

人との関わり方の違った入口に気づく

それは、

多くの人が役割を持てる

視点

知識より**意識**
課題より**可能性**
解決より**関係性**



ロマンは、
立場や関係、状況を超え
一歩踏み込むための
「燃料」だ!!

何が起こっても
誰もが住民として●●しあえる
プラットフォームづくり

語る人も聞く人もOpen Mindで。

“Open Mind”でロマンを